EXキーパー発売記念
Special Interview

格闘家・タレント

角田 信朗

NOBUAKI KAKUDA

僕の人生のそばに いつもクルマはあって、 僕の人生とクルマは 常にシンクロしています。

常に挑戦を忘れず、
新しい扉を開け続ける角田信朗さん。
山あり谷ありの人生のそばには、いつもクルマがありました。
今回、角田さんのクルマに過剰なまでの美しさを誇る
EXキーパープレミアムを施工させていただき、
クルマ、そして強い肉体と精神へのこだわりを聞きました。

ランボルギーニやフェラーリは、人生のチャンピオンベルトでした

僕はクルマが大好きで、クルマにまつわるエピソードはたくさんあります。

K-1のファイターになって、大阪から東京に拠点を移した頃、TV出演やCMの仕事を立て続けにいただくようになりました。その頃は、ランボルギーニとフェラーリを購入し、ガレージを借りて、子どもの頃に欲しくても買えなかったアメリカンコミックのフィギアと一緒に飾り、冷蔵庫やテーブル、コーヒーメーカーを置いて、クルマを眺めていましたね。僕にとって、クルマは頑張っている自分へのトロフィーやチャンピオンベルトのようなものでした。でもたぶん、その時の僕には、ランボルギーニは似合ってなかったと思います。他の人には、ただの調子に乗ってる奴にしか見えていなかったろうと思います。

その他にも、ハイエースをキャンピングカーに改造して、飛行機のファーストクラスのような座席を取り付けてみたり、アルファードをリムジンシートにして、テレビや冷蔵庫を付けてみたりしたこともありました。今考えるとムダな贅沢だったなと思うのですが、その頃はそれはそれで楽しかった。実際に手に入れてみないと分からないことってあるんですよね。

K-1ファイターとしても活躍した角田さん。2000年に亡くなったK-1ファイターのアンディ・フグ氏とは、2人合わせて「カクダンディ」と呼ばれるほど知己の仲。フグ氏のひとり息子の名付け親にもなったそうです。

贅沢をしている時代じゃない人生は次のステップへ

贅沢品だなと気づいたのは、東日本大震災が起きたときでした。こんな贅沢をしている場合じゃないと持っていたクルマを売り払って、義援金に回しました。これからは環境にやさしくなければと新しく購入したのは白のプリウス。僕の人生が次のステップに移ったんだなと感じました。この頃はなかなか仕事がうまくいかず、この白いプリウスは、僕と一緒に傷だらけになりながら歩んでくれていたような気がします。

これまで乗っていたクルマを思い出すと、その頃の自分や自分の想いもよみがえってきます。僕の人生のそばにいつもクルマはあって、僕の人生とクルマは常にシンクロしています。

すさまじいツヤで まるで新しいクルマになったみたい！

今乗っているCHRに出会ったのが2年くらい前。ホイールがかっこよくて、CMが劇画チックだったのがとても印象的だったこともあって購入しました。コーティングは、新車のときにディーラーでやってもらったっきりですね。洗車はガソリンスタンドの洗車機でするくらい。今回初めてEXキーパーをしてもらってすさまじいツヤで新しいクルマになったみたいでびっくりしました。脱皮して新しい膜が張られた感じ。ツルツルのスベスベで、10代の女性の肌みたい（笑）。ランボルギーニやフェラーリを持っていた頃は、コーティングにも洗車にもこだわっていました。その頃にEXキーパーがあったら絶対にやってましたね。

筋トレはメンタルトレーニング 体を鍛えてウェル・エイジング

今年の4月で59歳になりますが、若い頃よりも筋肉が発達し、健康的な身体になっていると感じています。筋トレって身体を鍛えているようで、実は心を鍛えるメンタルトレーニングなんです。

今、若い起業家で筋トレをしている方が多いのは、自分の中に潜んでいる弱さを克服し、限界の扉を突破していける強い精神を養うためなんです。筋肉は利息としてついているだけ。筋肉がつくと、スーツの着こなしも決まるし、安い服でもおしゃれに見える。「良い身体しているね」なんて話のきっかけになって商談がリードできたり、食事の話で盛り上がったりもします。自然災害や病の流行、映画の世界が現実に起こりうる時代、お金持ちよりも、強い肉体と精神を持ち、みんなを一つにまとめてリーダーシップをとっていける人間が生き延びていくんだと思います。また老後、楽しい人生を送るためには、ある程度のお金と趣味と仲間、そして筋肉が欠かせないと思っています。貯「金」よりも貯「筋」が大事です。アンチ・エイジングと良く言いますが、僕が提唱するのはウェル・エイジングです。自分の身体を整えながら、楽しく年を重ねていくということです。老いを悲観的に捉える人が多いですが、そんなことありません。年を重ねれば重ねるほど、たくさん失敗して、そこから学んで、いろんな経験をして、人間としての深みを増していきます。深みを増した人間性に、体力をつけたらもう最強じゃないですか。身体を鍛えることによって、ポジティブに年を重ねていくことができると思うんです。正しいトレーニングと食事、上手にセルフマネージメントをすることができれば、身体はちゃんと応えてくれます。

今回、角田さんのクルマに施工させていただいたのはEXキーパープレミアム。ボディだけでなく、窓ガラスやホイール、ヘッドライト、エンジンルームなど、外から見えない部分もすべてEXキーパーを施工しました。新開発のケミカルを使用し、過剰なまでの独特なツヤと強撥水を実現しています。取材当時は雨でしたが「水はじきが楽しみ！」と満足していただけたようでした。皆さんも未体験のツヤと撥水を、ぜひご自分のクルマで確かめてください！

アントニオ猪木さんが引退直前に「人は歩みを止めた時、挑戦をすることを諦めた時に年老いていく」とおっしゃっていました。前向きに常に挑戦をしていくことで、いつまでも生き生きと若々しく生きることができます。

もう一度贅沢が許されるなら ランボルギーニに乗りたい

60歳になって還暦を迎えた時、もし贅沢が許されるならば、もう一度ランボルギーニに乗りたいですね。その頃には、ランボルギーニが似合う男になっていたい。鍛えられた身体で、人間修行していい感じに枯れて、「かっこいい人生を歩めているな」と、他の人からも、自分自身でも認めることができるんじゃないかと思っています。

角田 信朗（かくだ・のぶあき）

1961年4月、大阪府堺市生まれ。関西外大英米語学科卒業、英語教員免許（中学1級、高校2級）を持つ。大学卒業後、サラリーマンをしながら空手を続け、1991年に総合格闘技団体リングスに参戦。93年に現役を引退するが、95年にK-1ファイターとして復帰。03年に2度目の現役引退、05年に再び復帰を果たす。近年ではボディビルダーとして、16年「大阪ボディビルフィットネス選手権大会」に初出場で3部門優勝。現在、歌手としても、タレントとしても活躍をしている。